

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【見沼小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	(1)学習課題の解決に向けて、解決方法や表現方法を根拠を明確にしながら考えることのできる資質・能力 (2)自己の学習を見直し、改善・調整(進捗状況の把握や修正の要否等)できる資質・能力
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)どのように学習を進めたり、自分の考えを伝えたりすればいいかを、児童自身が考え決定して実践することができるような授業の実施。【各単元の中で1回以上】 (2)授業でどんなことができるようになったか、次時に何をすればいいかを、児童自身が自分の学習について振り返ることのできる時間の設定。【毎時間もしくは単元末】

ざらざら(情円)

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
		↓
今年度の成果と 次年度の課題		①目標の達成状況 ②向上策の妥当性 結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	・国語、算数ともに記述式問題に対し「諦めずに書こうとする」意欲は高い結果である。しかし、算数における「二つの表の不整合を数値と文で示す問題」等、解答のための条件が複数ある記述式問題に対しては課題がみられる。 ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」に関連し、学習の「見直し」に対して肯定的な回答が8割弱と高い結果であった。
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	・複雑なデータを読み解き、筋道を立てて「複数の情報を整理し、客観的な根拠を基に説明する力」には課題がみられる。 ・「自律的に学びを改善・調整する」といった部分には課題があるが、学習や授業の見直しをしようとする意欲は高い。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業

③	調査結果分析		中間評価
学力向上策の実施状況	評価(※)	学力向上策(1)、(2)ともに計画に沿って取り組むことができている。今後も各単元や授業の中で、児童の主体的な学習が行われるように指導を継続していく。	
	B		
↓			
学力向上策の見直し	(変更なし)		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所